

# カルルス 橋湖 物語



2024年12月 7日(土)

参加者: O山内、S田、N沼、S藤、**S山**、**Y重樫**、**U杉**、**U田**、**O笠原**、M浪、**K藤**、 11名

行程: 8:30岡志別運動公園出発→9:00カルルス温泉入口P→9:10神社登山口  
9:55橋湖が眼下に見え→10:05橋湖着 湖畔巡り→11:40昼食→12:00下山  
12:28登山口着→13:00岡志別運動公園P着



S田さんが歩きながら興味深い話をするので登別史を読んできました。  
橋湖の成り立ち、クッタラ湖・日和山の形成と同じころ、クッタラ火山噴火で出来た爆裂火口が湖になったという、クッタラ湖はカルデラ湖、橋湖は爆裂湖とされている。

周囲3.5km 水面標高380m クッタラ湖と同様に流入、流出のない閉鎖湖で秘境の雰囲気醸し出す湖は周囲が広葉樹に囲まれている。

山行のこの日も冷えた空気・ときおり舞い散る雪・陽の光・雲の流れで、その色を変えて神秘的でした。

名前にも由来があるようで、アイヌ民族の間では「パスイヤント」と呼ばれ、明治42年カルルスを訪れた通信大臣の後藤新平がカルルス温泉開拓に尽力した日野久橘(現鈴木旅館開業)を称え「橋湖」と命名したと言う。

日野久橘は父と二代にわたり開墾測量をしていて温泉を見つけ寿館(鈴木旅館)を開湯した、続いて洗心館・千歳館(岩井)も加わりカルルス温泉は三軒の湯治場とし、登別温泉や幌別地区への道を開き地域発展の功績があった。



境内に橋湖入口の看板のある神社。

久橘は現在のオロフレ荘が建ってる場所に入浴はもちろん薬飲料にも適する湯を祭り、薬師神社を造りました。

その後、現在の場所に移転され氏神として祭られています。



個人所有の湖。

橋湖は日野家が買い取り所有していましたが、戦争など時代の変遷に伴い、栗林五朔など何人かの所有者を経て現在は大手釣り具チェーンの所有になっています。

おまけの話。

昭和に入りカルルスに鉄鉱石の鉱脈が発見されました。何度か休鉱山となりながらも採掘が行われましたが、完全廃坑になりました。その坑道跡には3mを超える高さの氷柱が見られると言う、しかし熟知する案内人がいなければ辿り着けない。これまたカルルスの神秘「氷筈はどこに！」



軽アイゼンが何度も外れ皆さんの足を止めてしまい待っていた  
だき有難うございました。

記録: Tea 写真: 1730